

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞
雌阿寒岳では、20日18時頃から火山性地震が増加しています。火山活動が高まっていますので、今後の活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況（図1～図7）

雌阿寒岳ではポンマチネシリ火口直下を震源とする地震が、9月下旬から10月中旬にかけて、やや多い状態となり、その後は低調に経過していましたが、20日18時頃から増加しています。22日昼頃からは更に地震回数が多くなり、振幅のやや大きな地震も発生しています。

地震回数は20日28回、21日158回、22日271回で、23日は05時までに162回となっています。

地殻変動や噴煙の状況に特段の変化はみられていません。

雌阿寒岳で顕著な地震増加があったのは2015年以来です。このときには地震増加の他に、噴煙量の増加や熱活動の高まりがみられるなど噴火の可能性が高まったことから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

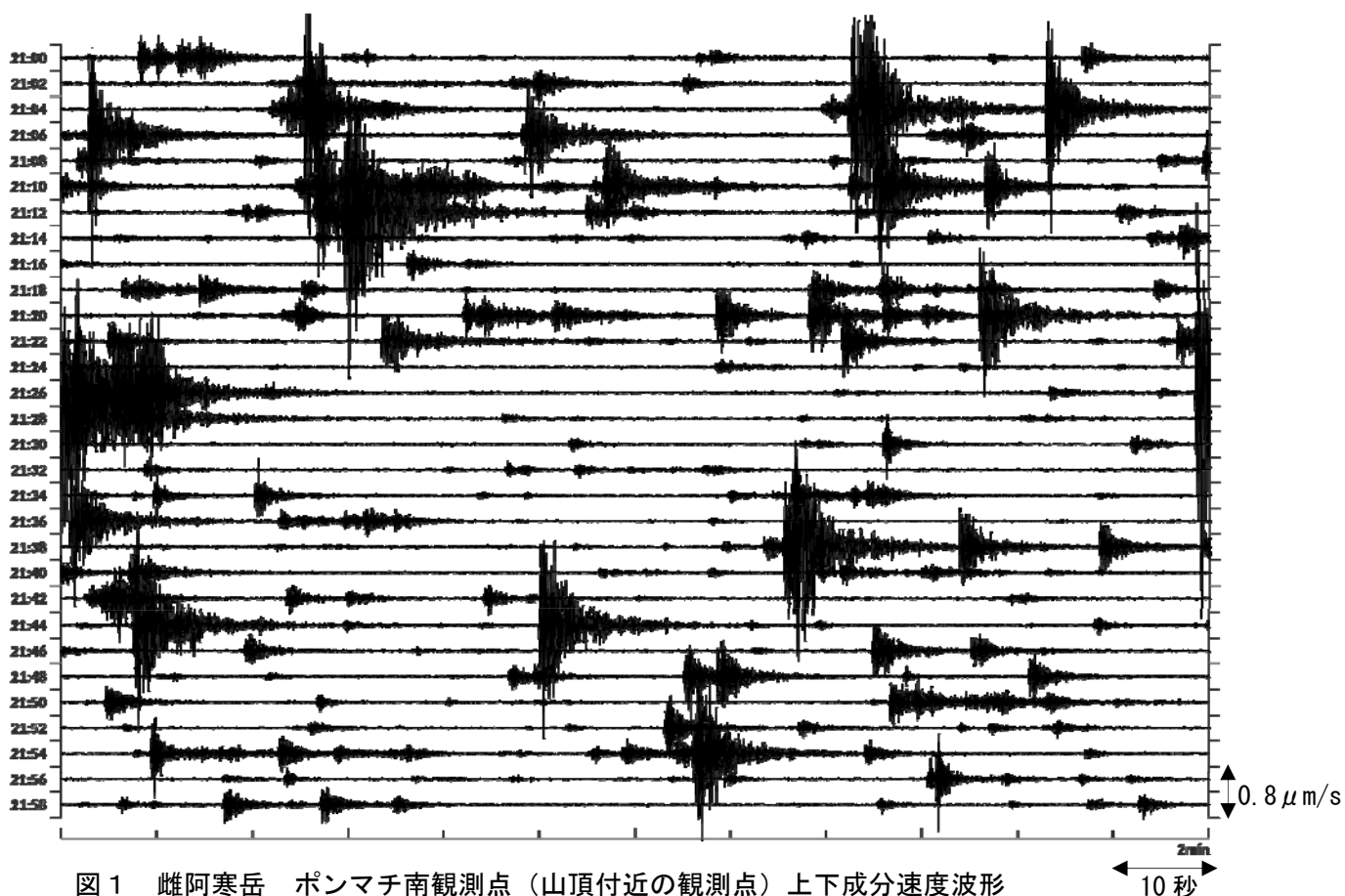


図1 雌阿寒岳 ポンマチ南観測点 (山頂付近の観測点) 上下成分速度波形
11月22日21時00分~21時59分

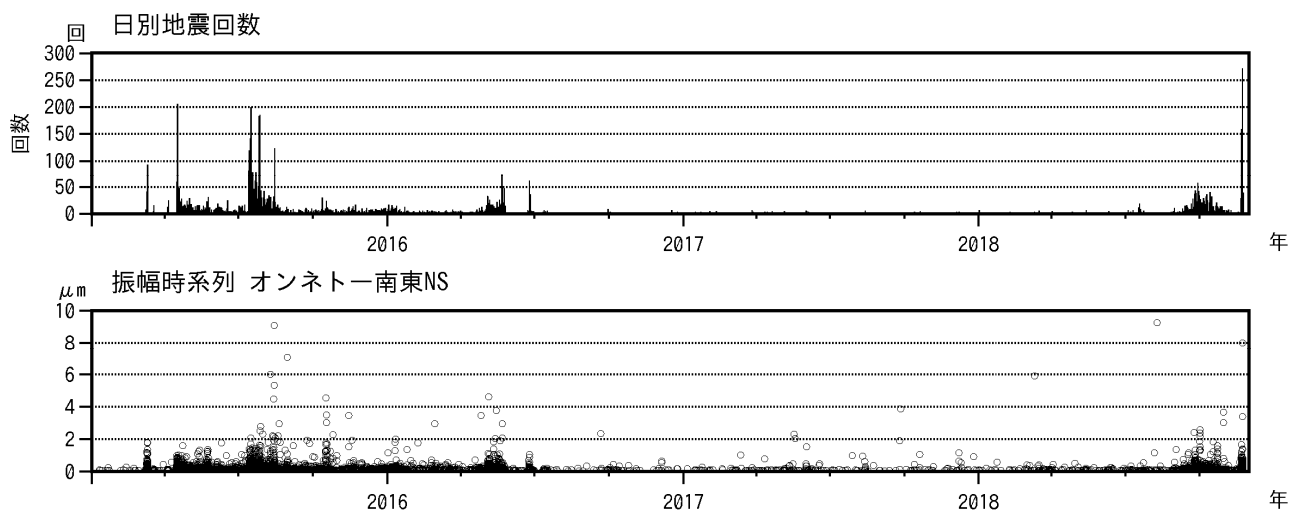


図2 雌阿寒岳 火山性地震の日別回数 (上段) 及びオンネトー南東 (南北成分) の
変位振幅時系列 (下段)
(2015年1月1日~2018年11月22日)

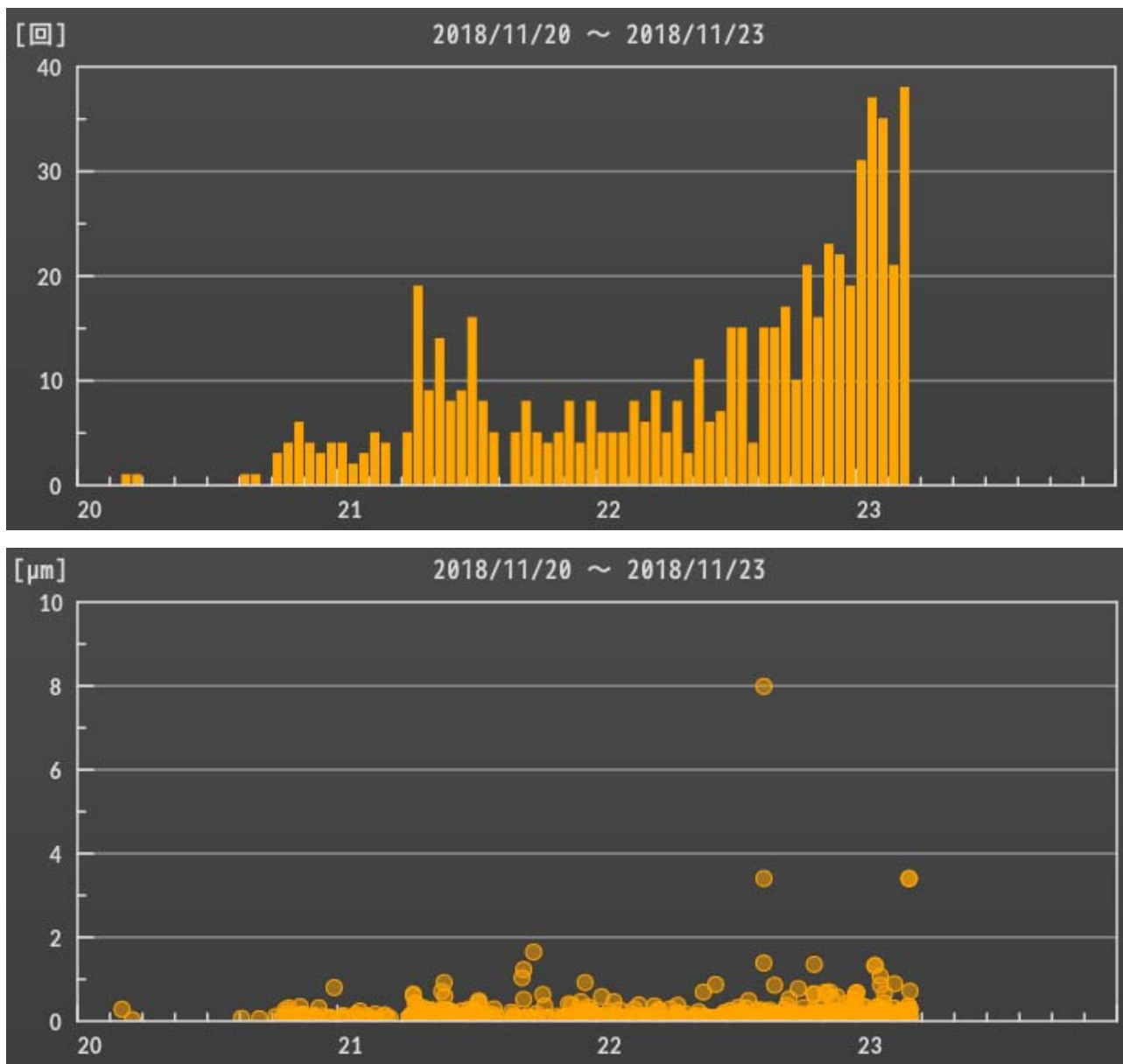


図3 雌阿寒岳 火山性地震の時間別回数（上段）及びオンネットー南東(南北成分)の変位振幅時系列（下段）
(11月20日00時～23日05時)

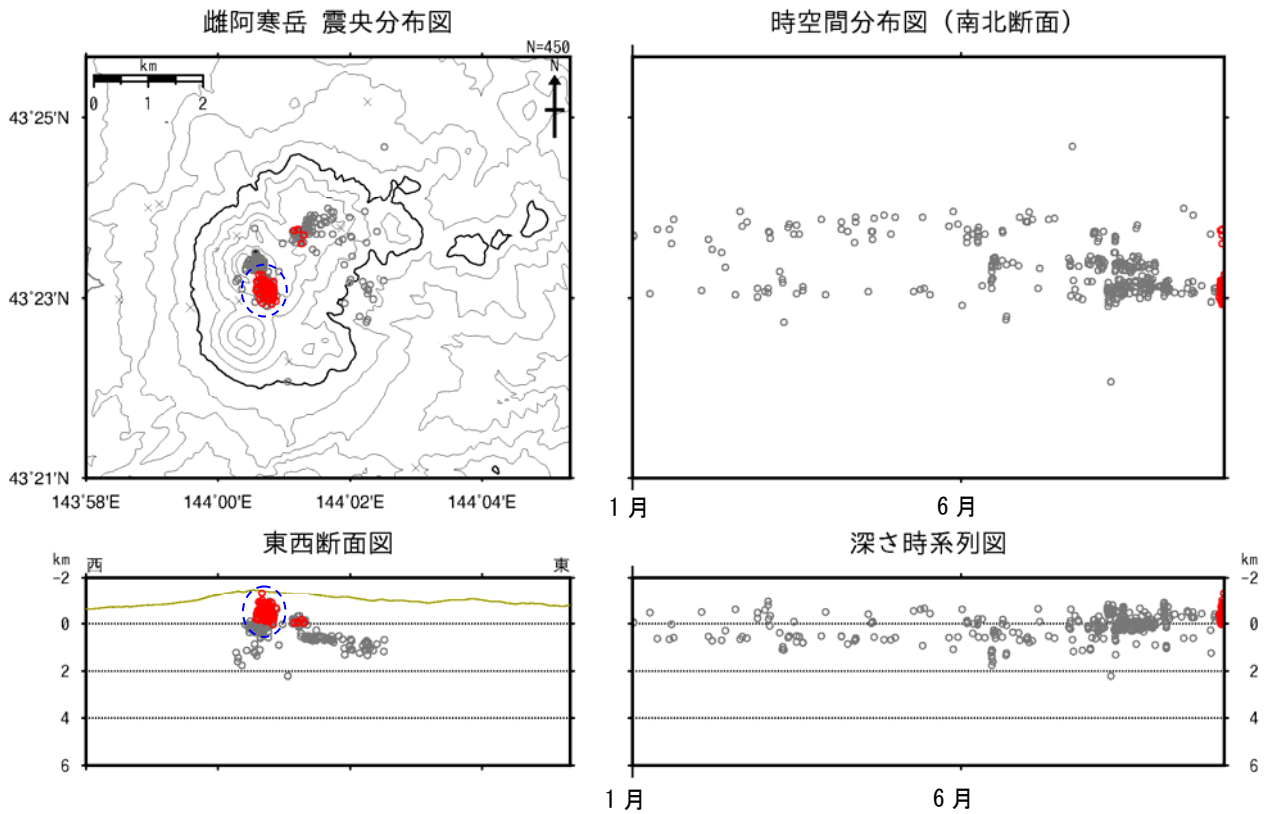


図 4 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布 (2018年 1 月～2018年11月22日)

●印：2018年 1 月～2018年11月19日の震源 ●印：2018年11月20日～22日の震源
 +印：地震観測点

- ・今回、地震が増加しているのは、ポンマチネシリ火口の海面下 1 km より浅い所 (青破線内) です。

雌阿寒岳 (時間値)

2018/11/20 00:00 -- 2018/11/23 03:00

EXP. NEup

1 μ ラジアン

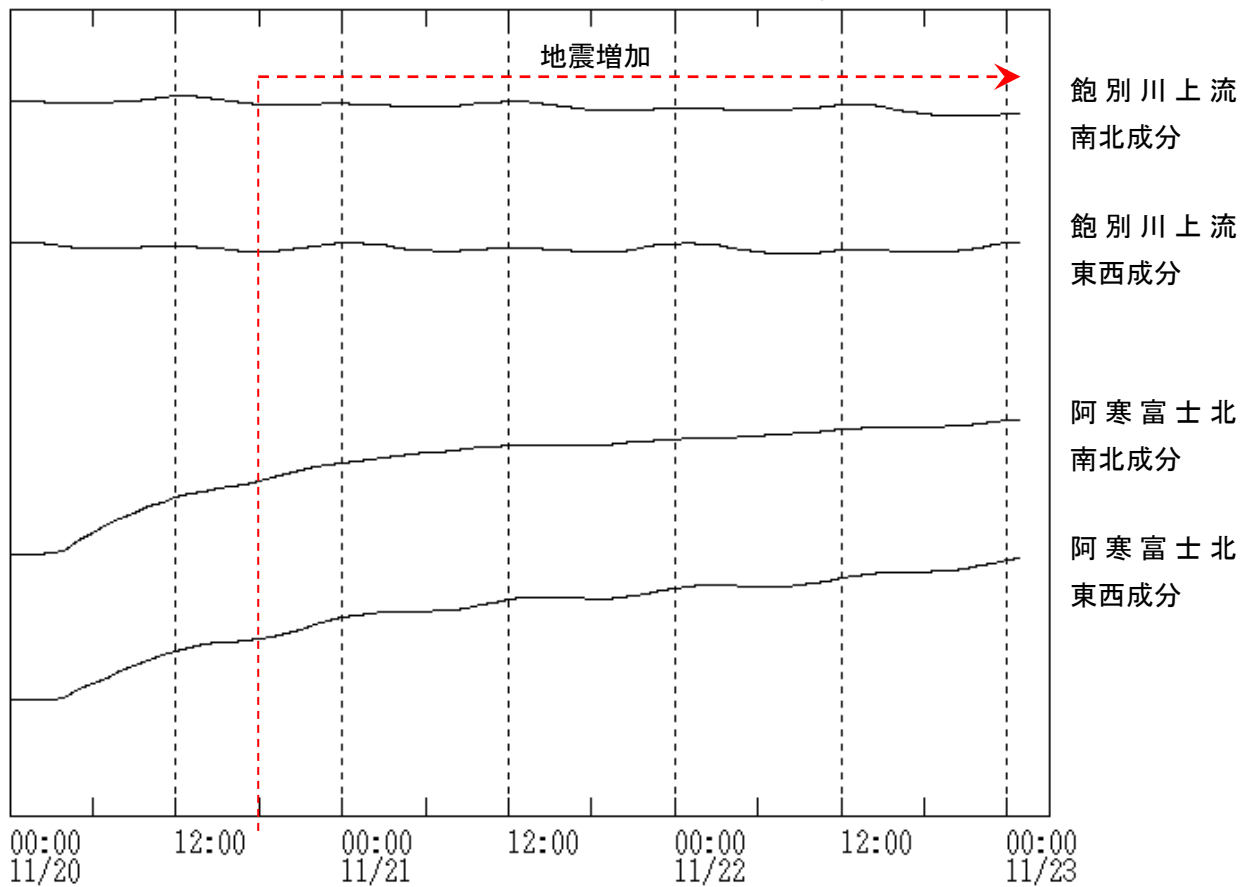


図 5 雌阿寒岳 傾斜計による地殻変動の状況 (11月20日00時~23日03時)



図 6 雌阿寒岳 南東側から見た山体の状況 (11月22日11時17分、上徹別監視カメラによる)

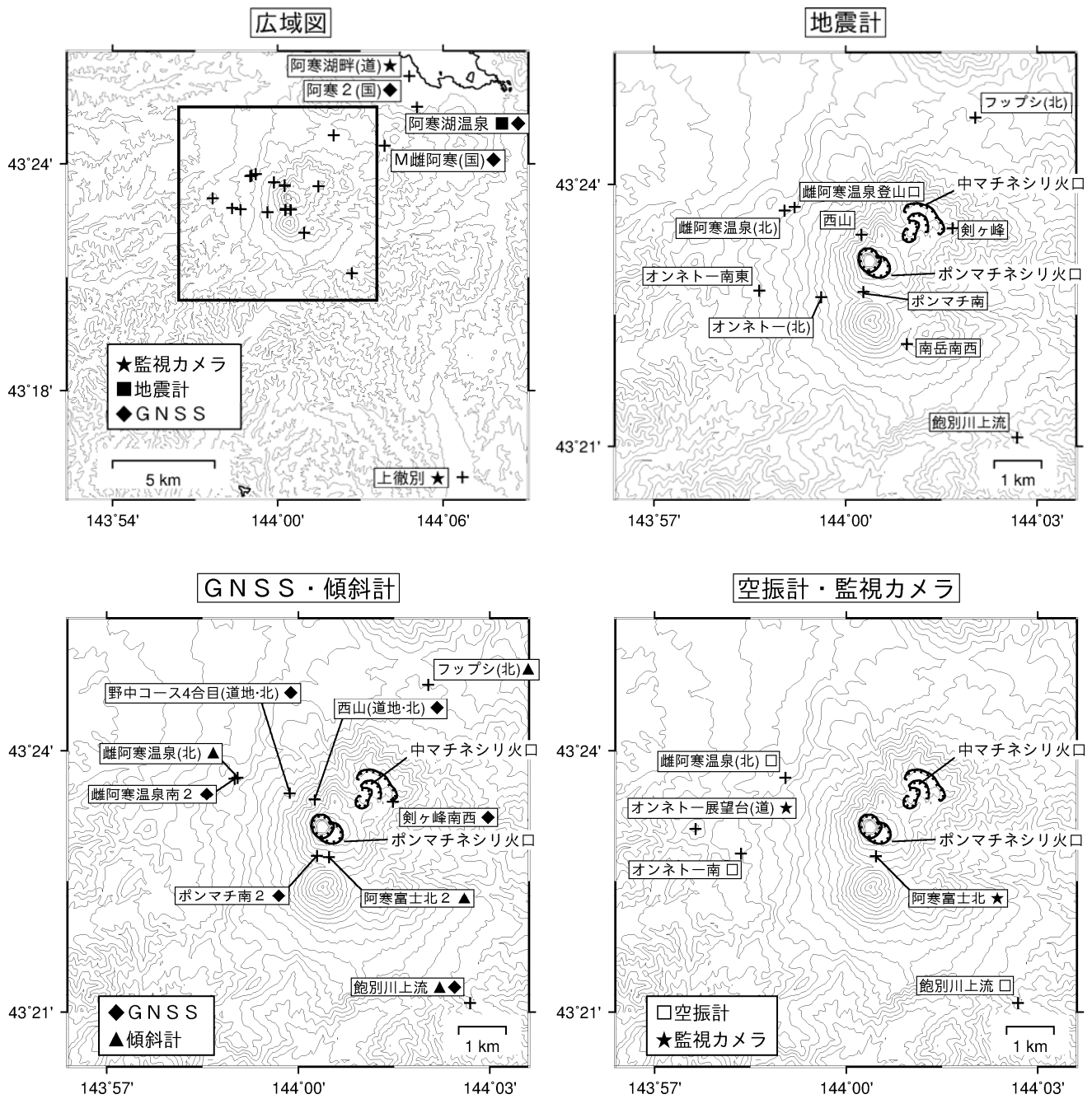


図 7 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の□で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(北) : 北海道大学

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所